令和４年度　第４回学校運営協議会・第２回学校評価部会　議事録

令和５年２月３日（金）於：上越市立有田小学校 会議室

１　開会のあいさつ　会長　略

２　後期学校評価結果の説明

＊教頭より、後期学校評価アンケートの集計結果について説明が為された。

校長：子どもたちが学校に安心して楽しく登校できることが一番だと思っている。人と上手に関わることが楽しさを生む。その最たるものが「あいさつ」と「言葉遣い」である。「あいさつ」ができないと、付き合っていくこともできない。まずは「あいさつ」ができる子に育てたいと全校で統一して取り組んできた。「言葉遣い」についても、自分の思ったことは言ってしまってもいいと思っている子どもが多い実態があった。だから、相手が嫌な気持ちになる言葉を使ってしまう。お互い気持ちよく生活するためには、相手が嫌な気持ちになる言葉は使うべきではないし、逆にもっと喜ぶ言葉を使えれば仲良くなるのに…ということを子どもたちは知らなくてはならないし、その気持ちよさを分かってもらわなければならない。そのように考えて、全校集会で指導し、学級でも話し合い、さらに、一人一人がめあてをもって取り組むようにしてきた。つまり、「あいさつ」にしても「言葉遣い」…「温かい言葉」にしても、自分で考えて取り組むことに力を入れてきた。そういった「もっとよくなりたい」という子どもたちの願いが結果として表れてきているものと考えている。しかし、これは習慣であり、あいさつの習慣がなかった子がいきなり素晴らしいあいさつができるということはなく、なかなか難しい子もいる。だからといって、叱って何とかなるものではなく、自分の心がしっかりとしてくると自然とできるようになってくると信じている。「温かい言葉」についても、友達とのかかわりの中で、そのような言葉遣いをするともっと仲良くなれる、友達から信頼されるといった経験を重ねることが、言葉をよりよくしていくのだろうと考えている。

【学校評価と学校目標について】

Ａ氏：子どもたちの現状について保護者の皆さんはどう考えているのかを問うために学校評価アンケートを実施したわけで、数値的なものでは概ね良いということだが、学校目標に向かってという点ではどうなのか？

校長：重要なポイントだ。私たちは授業や指導を日々続けているが、それらが全て集まり、これから生きていく大事な力を子どもたちに付けたいと組織的に機能させていくのが学校である。先生方一人一人の価値観もあるが、それらを束ねる必要がある。その最たるものがグランドデザインであり、重点目標となっているのが「豊かな人間性・社会性を育てる」である。つまり、ここで扱っている評価全てが「豊かな人間性・社会性を育てる」こととつながり、「学習では？」「心では？」「体では？」と、目指す子どもの姿について考えてもらっている。ただし、「豊かな人間性・社会性」の捉えも人それぞれのところがあった。そこで、「豊かな人間性・社会性」の基盤は、「自分のことを愛せる、好きになれる子」と「友達を大事にできる、信頼できる子」であると考えてもらって、学校の教育活動全てに取り組んでもらっているところである。

教頭：当校のグランドデザインとかかわる質問であると考えて、その意図について校長から話をさせていただい

た。これからの話は私個人の捉えであり参考程度にお聞きいただきたい。「豊かな人間性・社会性の育成」という重点目標に向かって、「心育て・学び・体づくり」の３点から向かっていくことを意図しているが、実態として「心育て」の取組でより強く意識されているように感じている。Ａ氏の問いは、「学び」でも「体づくり」でも同様に意識されるようになっていくことが必要では？という問いだと受け止める。職員の意識を束ねていくことが、子どもたちの成長にもつながっていくことから、次年度のグランドデザインは大きく変えないが「捉え直し」を確実に行いたいと考えている。

Ｂ氏：「学校に行くことが楽しい」とあるが、これは「総合的な楽しい」であり、その中身が何なのかは一人一人違うと思う。それらを具体的につかむことにより、グランドデザインもより具体的に描くことができるのではないか。そういうことをしていかないと、どうしても抽象的な話が多くなってしまう。一歩入り込んで姿をつかみ、取組を考えていくことも必要だ。子どもたちがイメージする「楽しい学校」とはどのようなものなのだろうか？また、子どもたちはどのようにお家の方に学校について話しているのかも気になるところ。そもそも話をしているのだろうか？

教頭：評価項目に関わることだと考える。これまで３年間、学校評価アンケートを取りまとめてきたが、項目を取捨選択し、より具体的な手立てを描くことのできる項目にしていく工夫も必要だと考える。「楽しい」や「お家の方に話をしているか」もその一つであると思う。

Ｂ氏：焦点を絞って評価項目を作って欲しい。多ければよいというわけでなく、精選していく必要がある。一つ増やせば一つ減らすという考え方が大切だ。そうでなければ、先生方の仕事ばかりが増えてしまう。

教頭：昨年も質問しているからということでなく、皆さんとより深い話をしていくためにも工夫していかなくてはならないと思う。

Ｂ氏：先生、それは少し違うよ。我々と話すためでなく、より前進するためにはどうしたらということだよね。

教頭：まったくその通り。

Ｂ氏：だからこそ、大人目線だけの「楽しい」ではなく、子ども目線での「楽しい」とはどういうことなのか？そういう考え方で工夫していくことが必要だろう。答えているのは子どもだから。

【あいさつの実態について】

Ｂ氏：子どもと言えば、今日は久々に来たが、本当に元気な声が聞こえている。あいさつもいい。そのあたり、子どもたちは変わってきているなと感じる。

Ａ氏：学校を回らせてもらったが、自分から「あいさつ」をする子が多く、うれしく思った。また、それぞれの学年で工夫しながらあいさつの取組をしていることもうかがえた。特に、子どもたちにあいさつの習慣を付けようという意図が感じられる試みが素晴らしい。これからも継続して、そして楽しみながら取り組んでほしい。それぞれの学年の取組のよさを、お互いに活かしていくことが大事だと思う。

教頭：Ｉ階オープンスペースにある虹の掲示をご覧になられたと思う。これも３年生によるあいさつ運動の取組で、子どもたちがアイデアを出して取り組んだものだった。

校長：学校全体であいさつに力を入れて取り組んでいるが、あいさつ月間のように期間を設けて取り組むことも

している。中学年、高学年は自分たちでどうしたらもっと良いあいさつができるかと子どもたちが考えて取り組んでいる。先生方があれこれと指図したものではなく、３年生はあいさつリーダーが中心となって様々なアイデアを出して取り組んでいった。これは、低学年にはさすがに難しいので、先生方が主導する部分はある。しかし、低学年はよいあいさつをすることで褒められたり、認められたりすることを喜び、さらにもっとよいあいさつをしようとして、どんどんよくなってきている状況である。

　あと、先程の「楽しい」という話はたいへん勉強になった。前年度よりよくなった、よくなかったではなく、その中身の問題。質の問題だと思う。楽しさにもいろいろあって、友達と遊べて楽しいとか、知的欲求が満たされて楽しいとか…これは全く中身が違う。子どもたちの成長によって、あるいは学校の質的向上によっても「楽しい」のレベルも変わってくる。先程のあいさつの話を例にすると、あいさつ運動のようなイベントをすること自体の楽しさ…というところから、自分たちが学校を変えたぞという楽しさに変わるだろう。他にも、友達と協力することが「楽しい」など、いろいろな「楽しい」があるのだろう。このアンケートで調べることが良いのかという議論もあるだろうが、具体的な中身について確認する方法も考えたいと思った。

Ｃ氏：例年、９月にあいさつ運動があって、その後は気が抜けることが多かった。しかし、今年は 11 月頃からが格段に良くなった。今まで「あいさつ」をしなかったお子さんはするようになり、あいさつをしている子は腰を曲げてあいさつをするようになった。劇的な変化だと思った。そして、それが今も続いている。
朝、立っていることが楽しいと感じられるようになった。子どもたちと言葉を交わすことも増えて、そのことが子どもたちの心の健康にもつながっていればよいと思った。外に出てあいさつを交わすということはなかなか難しいことで、あいさつを交わすことで私たち大人も元気をもらっている。機会があったら、子どもたちにもその変化や様子についてぜひ伝えていただきたい。

教頭：お気持ち有難く、子どもたちにも伝えていきたい。

【ボランティアや地域への意見について】

教頭：さて、保護者からの自由記述については、意見を全て資料に掲載させていただいた。学校からの回答案、学校だよりに掲載するかどうかについても併記した。ご覧いただいていかがだろうか？

Ｃ氏：個人名を挙げた意見の中に「聞きました」と記したものがある。これは、本人が実際に目にしたことではないということか。それとも、実際は目にしたが、あえて「聞きました」としたのか。行為を指しているが、歩行中の子どもとは違う状況でもある。この方は、この季節はスコップをもって見守りに来られる方である。それは、学校前の横断歩道を除雪し、子どもたちの安全を少しでも確保しようと熱心に活動してくださっているからだ。そのような方に対して、伝聞で糾弾するのはいかがなものだろうか？

Ｄ氏：これを読んだときに非常に残念な思いになった。一生懸命頑張っているのに、伝え聞いたことで非難するのは確かにいかがなものかとは感じる。意見としていただいたことは事実であり、ご本人の活動への意欲が削がれることのないように配慮し、私からお話ししたい。

Ｃ氏：私もボランティアとして立哨し、危ないと感じたときには子どもたちを叱ることもある。もしかしたら、

どこかで非難されているのかもしれない。気にはしないようにはするが…。

Ｅ氏：町内会の役員として、私もボランティアで見守りに参加している。300 人ぐらいが通過する場所で、親御さんも何人かが一緒に通る。でも、あいさつもしない方はいるし、一言もない。確かにボランティアではあるが、雨の日も風の日も立つわけで、お褒めの言葉の一つも欲しいというのが人情。今冬は、遊歩道の車止めを抜かないことになった。そのため、除雪車が出たときは通学路を確保するため、いつも雪掘りに行っている。子どもたちの安全な登校を願っているのは親御さんや学校だけではなく、町内会や子供会も実際に尽力している。そういったことも紹介してくれれば、我々の思いや願いも少しは伝わるのではないだろうか？

【習熟度別少人数指導について】

Ａ氏：昨年、学校を訪れた際に子どもたちの動きが少し違っていて、話を聞いたら習熟度別の算数をされているとのことだった。時期的には、中学校進学前の子どもたちが数学に対して嫌な気持ちにならないように…とのねらいもあると聞いた。昨年はもう少し早く取り組んでいたと思うが？

教頭：昨年は５年生の難関でもある「割合」から取り入れた。３学期の中頃からは６年生のまとめにシフトして実施した。

Ａ氏：学力向上に特化した取組であり、先生方の負担も増す取り組みであると思うが、学校に行きやすい、学習もよく分かると、子どもたちや保護者の評価にも表れる取組だと思う。習熟度別少人数指導に対する評価はどのようなものか？

教頭：習熟度別少人数指導の効果はある。しかし、人手が足りていない。単純に３学級を習熟度別に分けることにそれほど意味があるとは考えていなくて、もう一人が入級して４学級とし、少人数編成を実現することに効果があると考えている。そこで、昨年度は私と主幹教諭が交代で授業を持つことで実施した。今年も同様にとは考えたが、実施すると他に支障がでる状況であり、手が届かない。少しずつでもと入れられればとの気持ちはあるのだが…。

Ａ氏：子どもたちの「分からないことが分かった」というのは大切なことであり、とても良い取組だと思うだけに、残念だなと思う。

校長：現在の小学校の制度では、担任が自学級の学習を見るのが原則となっている。その中には学習が得意な子もいるし、苦手な子もいるというのが普通の状態。そのような学級で学習指導したときの理想は、分かる子はもっと深く、苦手な子はできるようになる…と、両立する授業を目指してはいる。しかし、なかなか理想通りにはいかず、さらには個に応じた…ここでの個に応じるとは「教えて」という子もいれば「自力でやりたいから教えないで」という子もいるということなのだが、それに少しでも応じるための手立ての一つとして「習熟度別少人数指導」がある。しかし、実現するには教員数を増やさなくてはならず、国が配置した人数以上が必要となる。そのため教頭が出ることになり、その間は教頭の業務はできなくなり、その分夜遅くまで業務に取り組む…となった。また、個に寄り添わなくてはならない児童もいて、そちらに人数が割かれている実態がある。子どもたちの「分からないことが分かった」を実現するためにも人数

を割きたいところだが、配置されている職員の中で実施していくのは、現在はかなり厳しい。

【自由記述の在り方について】

Ｂ氏：職員数や学級数もそうだが、学校でどうしようもないことを記述しているものがある。いかがなものか？このような記述は単なる苦情であり、他人からの伝聞のみで記述したと思われるものも散見される。このことから、学校評価アンケートはどのようなねらいで行っているものかを理解していない保護者がいるということだ。このアンケートは、「こうしてほしいが、このように改善できるのではないか。」と回答するべきもの。他校との比較論でも困るし、学校が解決できることとできないことも整理しないといけない。学校として今、苦労していること、解決できないことをきちんと伝えて、学校が困っていることについて保護者から意見を求める。そのような流れにしていかなければならない。保護者から意見が出てきたからといって、それをそのまま皆さんに伝えるのは違うと思う。

教頭：保護者からの自由記述については、委員の皆さんからの指導・助言をいただいた上で、学校だよりに掲載することから、全ての意見を委員の皆さんにお示しすることが必要だと考えている。しかし、協議資料への掲載の仕方などは工夫したい。

Ｂ氏：本当に協議するべきことは何かということ。学校が本当に困っていることを出してもらい、それについて一緒に考えていきたいと願う。この記述を外に出すべきかどうかについて協議したいわけではない。

校長：このアンケートの前に学校として、もしくは校長として、ここまで成果が出ているということ。しかし、課題もあってこのようなことで困っているということ。どのようにしたらよいかというように、協議項目を整理してお示しすることも考えたい。また、自由記述については、委員の皆さんに当校の実態のひとつとしてご承知をいただき、指導・助言をいただければ幸いである。

Ａ氏：学校評価アンケートの数値に関しては、児童の実態を関わらせながら学校としての考えをコメントとして挙げてもらえばよい。しかし、それらの項目だけでは補えない部分もあるのだろうから、自由記述も必要なのだと思う。ただし、その意図も伝えなくてはならない。

校長：子どもたちをより良く育てていくためであるということを伝え、今後も取り組んでいきたい。

Ｆ氏：先生方が報われないと感じる。保護者のコメントを読んで、ただただ驚くばかりだ。学校も大変であると感じた。自分の子どもがいた時代とは、保護者の考え方がかなり変わっている。そもそも、このコメントの半分程度はＰＴＡに上がってきて、保護者の間で解決に向かって話し合い、その上で学校にもお願いをしようか…という内容だ。しかし、好き勝手にコメントして、結局は学校任せ。自分さえ良ければそれで良いとする個人主義が見え隠れする。いろいろな保護者がいて当然ではあるが、皆さんに考え方を改めてもらう何らかの機会があればよいと思う。義務を負って権利を主張するならよいが、権利のみを主張する風潮はいかがなものだろうか？

教頭：様々なご意見をいただき感謝する。時間の制約もあり、議題を先に進めたい。自由記述については、紙幅の関係もあって全てを学校だよりには掲載できず、原案通りとしたい。

一同：（うなずく）

【教職員アンケートについて】

教頭：教職員アンケートの結果については資料のとおりである。挙げられている項目に気を配りながら、今後も教育活動を進めていく。なお、キャリア教育の項目などで、他校に比べ数値が低いとの指摘を受けたこともあった。当校では介護員や教育補助員など、授業を担当していない職員にも回答をお願いしていることもあり、次年度以降、実施方法や集計方法を見直していきたい。

【直東学園メディアアンケートについて】

教頭：集計に時間がかかったが、今回の学校評価アンケートに合わせて、直東学園全体にもメディアアンケートを実施している。その速報がまとまったのでお示ししたい。細かな分析はこれからということになるが、コロナ禍以降の子どもたちのメディア実態としては、まず、予想以上の所持率だということが分かった。全体の７割近く、東中は９割である。今回はテストケースであり、様々なメディアを対象としているが、子どもたちがいつでもネットにつながる環境にあることは間違いない。次年度は、これをスマホに絞っても良いのではないかと考える。次に、メディアコントロールに気を配っているかという点では、自分では気を付けていると考えている子が、当校は他校よりも多いということも分かった。しかし、実態として、平日にメディアを使う時間が５～６時間という子も、他校と比べて非常に多いことも分かった。休日にはさらに長くなる傾向もあり、あまり悠長には構えていられない。ただ、今回初めて直東学園全体としての数値が出たこともあり、今後、他校とも連携した取組を考えていきたい。

３　学校運営の報告・計画

①　夢・志チャレンジスクール事業、後援会からの支援について

スクールマネジメント実践報告書ならびに学校ボランティア報告書を基に説明が為された。

②　令和５年度のグランドデザインについて

会議前半の質疑をもって代える

③　次年度「行事予定（案）」について

４月と３月の学習参観を土曜に実施することや４月に家庭訪問を実施することなどについて、当校の実情から協議が為され、了承された。

４　その他

Ｂ氏：メディアアンケートについてだが、「スマホをもっているか」を問う際、あわせて「習い事に行っているか」についても聞いてほしい。習い事が終わり「迎えを呼ぶため」という目的もあるので。しかし、「自由に使えるか」というところは重要視しないといけないところだ。どのような目的で入手し、使用しているのかも把握する必要があるだろう。

Ｇ氏：意見の中に、駐車場を一方通行にするということについての案があったが？

教頭：春休みにラインを引こうかと検討している。実は、先の春休みに私と用務員とでラインを引こうかと算段をしていた。しかし、用務員が異動となったことやより良い方法があるかもしれないと思い直し、ＰＴＡと相談、皆さんに周知したという経緯がある。この春休みに、ＰＴＡの皆さんのお力をお借りして引くのもよいかなと考えている。

５　次年度の学校運営協議委員について

〇町内会長が改選となる年でもあり、これから変わる方もいる。内山さんは町内会長の任が解け、有田小学校後援会長（有田地区町内会長協議会の副会長が充てられる）の任も解ける。ただし、総会までは務めることとなる。市教委への報告は３月３日であり、以降は決まり次第、学校へ報告いただきたい。

４　閉会あいさつ　校長　略

（本議事録は発言録ではなく、記録者が要旨をまとめたものです）